

疾患情報ウェブサイトのご案内

CML患者さん向け
疾患情報サイト

CMLステーション

慢性骨髄性白血病(CML)とともに人生を歩むことになった患者さんが、ご家族やご友人などの患者さんを支える方々と一緒に、安心して病気と向き合いながら未来へ進めるようになるための情報をお届けするWEBサイトです。

病気と治療に関する情報のほか、患者さんの体験談、Q&Aなどのお役立ち情報を掲載しています。



<https://www.gan-kisho.novartis.co.jp/cmlstation>

かかっている医療施設

施設名：

連絡先：

主治医：

ノバルティス ファーマ株式会社

GLI00018GK0031
2026年6月改訂

慢性骨髄性白血病

～グリベック®を服用される方へ～

監修：浜松医科大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部 小野 孝明 先生



『白血病＝不治の病』ではありません

白血病というと、ひと昔前までは『不治の病』の象徴でした。でも、最近の医学の発達により、白血病は『治る病気』となってきました。

もちろん、病気の進行度や患者さんの体の状態によって、病気はさまざまな経過をたどり、必ずしもすべての白血病が治せるわけではありません。
しかし少なくとも、白血病は『治すつもりで闘う』べき病気です。

白血病と闘うには、まずその正体をよく知ることが非常に大切です。

どうか、この小冊子をよく読んでください。もし少しでも疑問点、不明点があれば、迷わず主治医に相談してください。そして、納得した上で、安心して治療を受けるようにしましょう。



1. 白血病について

白血病は、遺伝子が傷つくことによって、起こります 3

2. 慢性骨髄性白血病について

慢性骨髄性白血病は初期の段階ではゆっくりと進行します 4

慢性骨髄性白血病は、進行度により3つに分けられます 5

慢性骨髄性白血病の原因遺伝子は、すでに見つかっています 6

3. グリベック® について

グリベック®は、慢性骨髄性白血病の原因蛋白に作用します 7

グリベック®の副作用について知っておいていただきたいこと 8

グリベック®を服用するに当たって、注意すべきことがあります 9



1 白血病について

白血病は、遺伝子が傷つくことによって、起こります

白血病は『**血液のがん**』といわれています。骨髄¹⁾の中にある、造血幹細胞²⁾と呼ばれる血液細胞のもとになる細胞が、がんになる病気です。白血病にかかると、体内で2つのことが起こります。まず第1に、**異常な白血球**が作られます。第2に、体が**異常な白血球を作り続け**て血液中にこの異常な白血球が増えていき、正常な白血球が作れなくなります。白血球は、体内に入ってきた細菌やウイルスなどを攻撃し、体を守る働きがあるため、白血病になると体を守る働きが失われてしまいます。

白血病をはじめとしたがんの原因は、まだはっきりとはわかっていませんが、最近の研究では、さまざまな原因により**遺伝子に傷**がつき、傷ついた遺伝子から初期のがん細胞が発生することがわかっています。遺伝子を傷つける原因は、放射能や紫外線、タバコをはじめ、日常の中にたくさんあり、**初期のがん細胞**は、私たちの体内では常に作られています。

多くの場合、この初期のがん細胞はまもなく消えてしまい、正常な状態に戻ります。しかし、ごく一部の人ではそのまま増殖し続けて、本当のがんになってしまいます。初期のがん細胞が増殖し続けるか消えてしまうかは、まったくの偶然によるものようです。

『遺伝子の病気』と聞くと、「遺伝するのでは…？」と考える方もいるかもしれませんが、本冊子で説明する**慢性骨髄性白血病**がご家族に遺伝することは通常、ありません。

ことばの説明

- 1) **骨髄**：骨の中心部にある柔らかなゼリー状の組織で、ここで血液細胞が作られる。
2) **造血幹細胞**：血液細胞を生み出す一番のもととなる細胞。骨髄中のほか、末梢の血液や、さい帯血（へその緒の中に含まれる血液）にも存在する。

2 慢性骨髄性白血病について

慢性骨髄性白血病は初期の段階ではゆっくりと進行します

慢性骨髄性白血病（CML）は、白血病の一種です。「慢性」とは、この病気が初期の段階では**ゆっくりと進行**することを示しています。「骨髄性」とは、白血球のうち骨髄系幹細胞から作られる好中球、好酸球、好塩基球などが増加することを示しています（詳しくは4ページをご覧ください）。

慢性骨髄性白血病では、血液細胞のもととなる造血幹細胞に異常が起こり、ふつうは2週間くらいで自然に役割を終えて、いなくなるべき白血球が、いつまでも消えずに残ります。そのため**骨髄の中で白血球がどんどん増え続け**、血液中に、芽球と呼ばれる**未成熟な白血球**が増えていきます。ただし慢性白血病では正常に近い白血球が作られるため、白血球の数は非常に増えますが、これだけでは症状は少なく、病気の進行もゆっくりしています。一方急性白血病では、未熟な白血球だけが作られるため、正常な白血球や血小板、赤血球がまったく作られなくなり、病気が急速に進みます。

急性白血病と慢性白血病とでは、病気の起こり方や仕組みがまったく違いますので、急性の白血病が慢性化することはありません。

【主な白血病の種類と特徴】

白血病の種類	白血病細胞の種類	病気の進行
急性骨髄性白血病	未成熟な骨髄芽球	はやい
慢性骨髄性白血病	正常に近い骨髄系白血球	ゆっくり
急性リンパ性白血病	未成熟なリンパ芽球	はやい
慢性リンパ性白血病	正常なリンパ球	ゆっくり

慢性骨髄性白血病は、進行度により3つに分けられます

慢性骨髄性白血病(CML)は、病気の進行度によって、慢性期、移行期、急性転化期に分けられます。

慢性期は、病気がゆっくりと進行している時期で、症状は安定しています。急性転化期になると、病気の進行が速くなり、症状が強くなるようになります。移行期はちょうどその中間です。

ほとんどの患者さんは、慢性期の段階で病気がわかります。慢性期に治療を開始するとよい結果が出やすいことがわかっていますので、慢性期のうちに適切な治療を開始し、移行期、急性転化期に進行するのを防ぐことが大切です。

[CMLの進行度と症状]

	白血球の状態	主な症状
慢性期	白血球は増加しているが、芽球はまだ少ない。	初期はほとんど症状なし。次第に、全身倦怠感、微熱、夜間の発汗、体重減少などが出現。
移行期	治療が効かず、芽球が徐々に増加してくる。	脾臓 ¹⁾ が腫れて大きくなる。貧血、発熱などが出現。
急性転化期	白血球の30%強が芽球となる。	急性白血病のようになる。貧血、出血傾向、発熱なども強くなる。

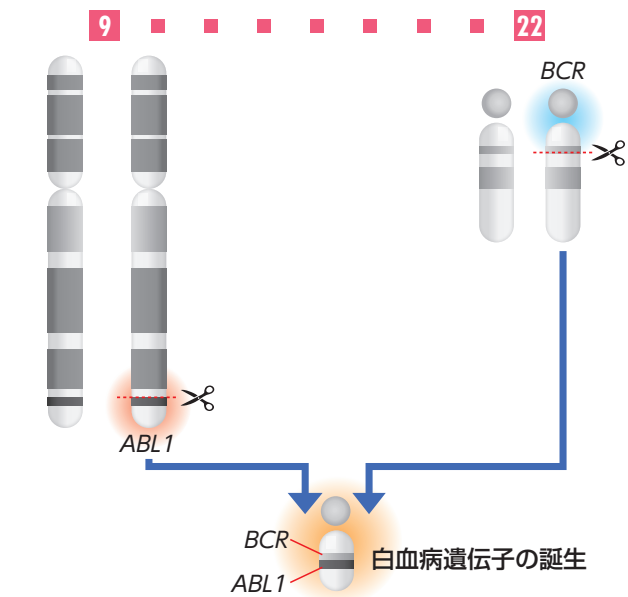
ことばの説明

1) 脾臓: 左上腹部にあり、古くなった血球細胞を血液中から取り除く働きをする。

慢性骨髄性白血病の原因遺伝子は、すでに見つかっています

慢性骨髄性白血病(CML)の原因となる遺伝子は、すでにわかっています。CML患者さんの95%以上で、フィラデルフィア染色体と呼ばれる特殊な染色体が見つかっており、CMLの原因となる異常な遺伝子はこの染色体の上にあります。

染色体というのは遺伝子の束です。遺伝子は我々の体の働きに重要な蛋白を作っています。人には46本の染色体がありますが、フィラデルフィア染色体は、このうち9番目の染色体と22番目の染色体が途中から切れて、入れ替わってつながった(相互転座といいます)ものです。2つの染色体がつながるとき、それぞれの染色体の切り口にあった、BCRという遺伝子と、ABL1という遺伝子が1つになって、BCR::ABL1遺伝子という新しい遺伝子ができます。これがCMLの原因となる異常な遺伝子です。BCR::ABL1遺伝子によって作られる蛋白は、「白血病細胞を作れ」という指令を絶え間なく出しています。そのため、体内では白血病細胞がどんどん作り続けられてしまうのです。



3 グリベック®について

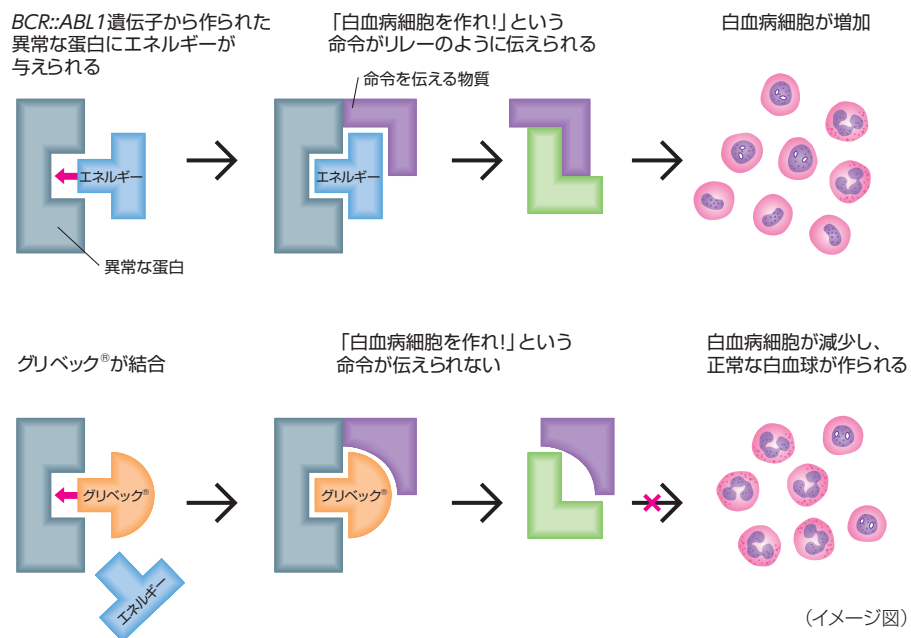
グリベック®は、慢性骨髄性白血病の原因蛋白に作用します

グリベック®は、「分子標的薬」と呼ばれるお薬です。グリベック®を服用する際には、グリベック®について正しい知識を身につけることが重要です。

慢性骨髄性白血病(CML)の原因は、*BCR::ABL 1*という遺伝子であることはすでにお話ししましたが(詳しくは7ページをご覧ください)、グリベック®は、この*BCR::ABL 1*遺伝子がつ作っている**異常な蛋白**を標的とし、この蛋白が出し続けている「異常な白血病細胞を作れ」という指令を遮断します。

グリベック®は、フィラデルフィア染色体をもっている白血病細胞を減少させることによりCMLに対する効果を発揮します。

グリベック®は錠剤を1日1回(場合によっては2回)服用します。



グリベック®の副作用について知っておいていただきたいこと

グリベック®服用中は、副作用が出ることがありますので、副作用についてはよく理解しておくことが重要です。

よくある副作用

- 嘔気(吐き気)
- 発疹
- 嘔吐
- 浮腫(むくみ)
- 筋痙攣
- 下痢
- 食欲不振
- リンパ球減少症
- 好酸球増多症
- 肝機能検査値異常(LDH、AST、ALT、ALP上昇)
- 臨床検査値異常(血清カリウム低下、血清リン低下、血清アルブミン低下)
- けん怠感

重大な副作用

- 骨髄抑制(汎血球減少、白血球減少、好中球減少、血小板減少、貧血)
- 出血(脳出血、硬膜下出血)
- 消化管出血、胃前庭部毛細血管拡張症
- 消化管穿孔、腫瘍出血
- 肝機能障害、黄疸、肝不全
- 重篤な体液貯留(胸水、腹水、肺水腫、心膜滲出液、うっ血性心不全、心タンポナーデ)
- 感染症(肺炎、敗血症など)
- 重篤な腎障害
- 間質性肺炎、肺線維症
- 重篤な皮膚症状(中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群<スティーブンス・ジョンソン症候群>、多形紅斑、剥脱性皮膚炎など)
- 天疱瘡
- ショック、アナフィラキシー
- 心膜炎
- 脳浮腫、頭蓋内圧上昇
- 麻痺性イレウス
- 血栓症、塞栓症
- 横紋筋融解症
- 腫瘍崩壊症候群
- 肺高血圧症
- 血栓性微小血管症

グリベック®服用中は、副作用があらわれていないかどうか、主治医が定期的に検査を行います。これらの副作用は、多くの場合グリベック®を中断したり、ほかの分子標的薬に変更することで、対処が可能です。

ここに示した副作用はもちろん、これ以外についても、少しでもおかしいと思う症状があらわれた場合には、**すぐに主治医または薬剤師に連絡**してください。

グリベック®を服用するに当たって、注意すべきことがあります

●服用する際は、PTPシートから錠剤を取り出して、食後にコップ1杯(200cc程度)の水またはぬるま湯といっしょに飲んでください。

●以下に該当する場合はグリベック®を服用できませんので、主治医に相談してください。

○イマチニブ(グリベック®の主成分)または本剤のその他の成分に対して過敏症のある場合

○妊娠している、またはその可能性がある場合

○ロミタピドを服用している場合

●以下に該当する人はグリベック®の服用に当たって特に注意が必要です。主治医に相談してください。

○肝臓の病気にかかっている人

○高齢者

○心臓の病気にかかっている、またはかかったことがある人

●めまいやねむ気、目のかすみが起こることがありますので、高いところでの作業、車の運転など、危険を伴う機械の操作には注意してください。

●飲み忘れた場合、誤って多く飲んだ場合

飲み忘れに気づいてもすぐに服用せずに、次回の服用時間に1回分を飲んでください。また、多く飲んでしまった場合は、すぐに主治医に連絡してください。

●主治医の指示なしに自分の判断で服用をやめたり、量を変えたりしないでください。

●グレープフルーツジュースといっしょに飲むと、この薬の作用が強くなる考えられますので、避けてください。

●ほかの薬を飲んでいる場合は、必ず主治医に相談してください。

グリベック®は、ほかの薬といっしょに飲むと、お互いに影響を与えあって、うまく効果が発揮できない場合や、効果が強く出たりすることがあります。現在、ほかの薬を飲んでいる場合、また、今後飲みたいと思ったときは、必ず主治医に相談してください。

●服用をやめた後に、筋肉痛や関節痛に気づいた場合は、主治医や薬剤師に相談してください。



【グリベック®と併用してはいけない薬剤】

薬剤名	薬の種類	臨床症状
ロミタピド	家族性の高コレステロール血症の薬	ロミタピドの血中濃度が上昇する可能性があります。

【グリベック®との併用に注意する必要がある薬剤など】

薬剤名	薬の種類	臨床症状
レーアスパラギナーゼ	急性白血病、悪性リンパ腫の薬	肝臓障害が起こりやすくなる可能性があります。
アゾール系抗真菌剤	水虫などカビによる感染症の薬	グリベック®の血中濃度が上昇し、グリベック®の作用が強くなる可能性があります。
エリスロマイシン クラリスロマイシン	抗生物質	
フェニトイン	抗てんかん薬	グリベック®の血中濃度が低下し、グリベック®の効果が落ちる可能性があります。
デキサメタゾン	副腎皮質ホルモン剤	
カルバマゼピン	てんかん、躁病などの薬	
リファンピシン	抗結核薬	
フェノバルビタール	不眠症や不安などの薬	グリベック®により、これらの薬の代謝が抑えられ、これらの薬の血中濃度が上昇する可能性があります。
セイヨウオトギリソウ (セント・ジョーンズ・ワート) 含有食品	不安や気分の落ち込みに よいとされている健康食品	
シンバスタチン	高脂血症(高コレステロール血症)の薬	
シクロスポリン	免疫機能を抑える薬	
ピモジド	統合失調症や自閉症の薬	グリベック®の作用が強くなる可能性があります。また、ニロチニブの作用が強くなる可能性もあります。
トリアゾラム	不眠症の薬	
ジヒドロピリジン系 カルシウム拮抗剤	高血圧や狭心症の薬	グリベック®の血中濃度が上昇する可能性があります。
ニロチニブ	慢性骨髄性白血病の薬	
ワルファリン	血液を固まらないようにする薬	ワルファリンの血中濃度が上昇する可能性があります。
アセトアミノフェン	非ピリン系の解熱鎮痛薬 (市販のかぜ薬に多く含まれています)	肝臓障害が起こりやすくなる可能性があります。
グレープフルーツ ジュース	—	グリベック®の血中濃度が上昇し、作用が強くなる可能性があります。